

# ブーリン家の姉妹 (The Other Boleyn Girl)

観賞日 2024年4月22日 上映時間 114分

## 【概要】

制作 2008年 アメリカ・イギリス

監督 ジャスティン・チャドウィック

脚本 ピーター・モーガン

音楽 ポール・カンテロン

撮影 キアラン・マクギガン

出演 ナタリー・ポートマン (アン・ブーリン)、スカーレット・ヨハンソン (メアリー・ブーリン)

エリック・バナ (ヘンリー8世)



## 【あらすじ】

16世紀前半、イングランド国王のヘンリー8世は男の跡継ぎに恵まれなかった。ある日、国王はブーリン家を訪れる。ブーリン家には年頃の美人姉妹がいた。姉のアンは頭の良い野心家。妹のメアリーは心の優しい娘であった。ブーリン家の主、トーマスは姉のアンを国王が気に入るよう仕向ける。しかし、王の心をつらえたのは妹のメアリーであった。メアリーは国王の招きで王妃の侍女となり一族は宮廷に引越しをする。メアリーは国王の寵愛を受けるが、アンは許婚のいる貴族と関係を持ちフランスに追放される。メアリーは首尾よく王の子を身籠るが体調を崩してしまう。窮地に陥った一族は急遽、アンを呼び戻す。アンはフランス仕込みの才覚でたちまち王の心をつかむ。待ち望んだ国王の求愛を一旦はねのけ、無茶な条件を要求するアン。王妃との離婚を要求し、アンを王妃にするという条件だ。カトリックでは離婚は禁止されているため、国王も悩むが苦渋の決断をし、ローマと決別する。勝ち誇ったアンはやがて妊娠するが、生まれた子はまたしても女の子であった。動揺するアンは遂に禁じ手を使うが、それがばれて断頭台に送られる。アンが生んだ女の子はエリザベスと名付けられ、皮肉なことにやがてイングランドを世界一の大国に導く女王となる。

イングランドの歴史を変えた、ヘンリー8世とブーリン家の姉妹の愛憎劇。

## 【解説】

■イギリスの歴史(とくに宗教史)を語るうえでターニング・ポイントとなる時期

●ヘンリー8世(1491年~1547年)

イングランド国王、ローマカトリック教会から分離し、英国国教会を設立

●アン・ブーリン(1501年~1543年)

ヘンリー8世の2番目の王妃。

●メアリー・ブーリン(1500年頃~1543年)

ヘンリー8世の愛妾。アンの子供

●エリザベス1世(1533年~1603年・1559年即位)

アン・ブーリンの娘。スペインの無敵艦隊を破り、イングランドの第1次黄金時代を築く

■見どころ

●次代を担うスター、N・ポートマンとS・ヨハンソン夢の共演

・ナタリー・ポートマン(1981年・イスラエル生まれ)

代表作:レオン(1976年)、ブラック・スワン(2010年)

・スカーレット・ヨハンソン(1984年)

代表作：ロスト・イン・トランスレーション（2003年）、マッチ・ポイント（2005年）  
・今は時めく、B・カンバーバッチとE・レッドメインも出演